

八戸市立図書館蔵 遠山家旧蔵本の『往来物』について

Investigation report on "OURAIMONO" documents donated by the Toyamas of Hachinohe City Library possession

郡 千寿子*
Chizuko KOHRI*

要 旨

八戸市立図書館所蔵の遠山家旧蔵本について、文献調査を行い、近世期の往来物資料について、整理と分類を試みたものである。その結果、往来物資料の総数は24本であり、そのなかに近世期の版本は12本であることが判明した。写本は12本であった。遠山家旧蔵本の調査結果であり、遠山家でどのような文献が読まれていたのか、資料の偏在状況と、分類整理を通してみえてきた教育内容についての一面を提示した。八戸市立図書館には、他にも南部家文庫や百仙洞文庫に往来物資料の存在が確認でき、八戸市立図書館に所蔵される往来物資料は、かなりの数量になることが予想される。遠山家旧蔵本については、従来、未確認未詳の文献資料であり、ここに紹介することにより一つの大きな意義がある。基礎的な研究段階であるが、それぞれの地域における教育環境や文化的背景の共通点や相違点など、新たな視点からの研究の可能性を示唆したものである。

キーワード：往来物、庶民教育、言語生活、八戸藩、遠山家

1 研究の方向性について

近世期以降に出版された往来物資料を通して、実生活にどのようにそれらの文献資料が関わっていたのかの具体像を探ることを目的に研究¹⁾をすすめている。往来物は、寺子屋などで手習いのために使用された教科書の類の総称であるが、近世期には様々な種類のものが出版されている。

従来の往来物研究は、教育史資料という側面が大きかったが、人間文化形成に果たした役割や社会に与えた影響など、多くの未開拓課題が残されており、新たな視点からの活用が期待されている。

日本社会の近代化に往来物資料が、大きく関わっていたことが予想されるのであるが、文献資料の基礎的研究をはじめとして、その発掘も未だ十分にはすすんでいない現状にある。そうしたことをふまえて、北東北地域の往来物資料についての検討を通して、近世期の庶民生活の一面や教育的背景について考えてみたいと思っている。

本稿では、八戸市立図書館所蔵の遠山家旧蔵本の往

来物調査から、こういった種類の文献が所在しているのかについて紹介し、分類と整理²⁾を試みた。今後、南部家文庫をはじめとした八戸市立図書館所蔵の往来物資料についての調査も実施し、その全容解明につとめたいと思う。

2 八戸市立図書館所蔵の資料調査について

これに先立ち、すでに弘前市立図書館所蔵の「往来物」資料調査および岩手県立図書館所蔵の「往来物」資料調査を行なっている。原則として、写本は除き、版本に限って、成立時期や出版元を確認した。

写本を除いたのには意味がある。この研究の大きな目的のひとつは、地方における近世期の庶民生活について、出版文化を通して考えてみることである。写本はもちろん、その資料の内容を知るには重要な資料であるが、どこでどのような文献が出版され、それがどのような場所で使われてきたか、文化や教育の流通状況を解明するためには、版本の方がより大きな資料的価値をもつと考えたからである。すべてを詳細に検討

* 弘前大学教育学部国語教育講座

Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Education, Hirosaki University

するよりも、大要を明らかにするために調査資料をより限定して考察検討する方法をとった。

弘前市立図書館所蔵の調査対象の資料は、総数197本であった。岩手県立図書館所蔵の往来物資料の総数は70本であるが、近世期の版本に限ると6本であった。それらを目的別と出版地別に分類整理して、それぞれの特徴について考察検討したのである。基本的には、従来の調査手法を踏襲し、八戸市立図書館所蔵の「往来物」を調査することにし、分類整理を試みたいと思う。

八戸市立図書館³⁾は、南部家文庫、百仙洞文庫がある。南部家家臣の相互扶助組織であった書物仲間を継承し、明治7年八戸書籍縦覧所が発足して以来の継続した歴史をもつ図書館で、安藤昌益資料の整備など充実した内容と活動で知られている。南部家文庫は、寛文4年(1664)に盛岡藩から分藩して二万石を領した八戸藩主南部家の蔵書で、その大半は江戸麻布市兵衛町の藩邸に伝来されていた書籍であった。その一部は散逸したが、2000点15000冊に及ぶ国書、200点2000冊程の漢籍、準漢籍は昭和42年(1967)に八戸市立図書館に寄託された。

南部家文庫の文献の中にも、かなりの往来物資料が存在することをすでに確認しているが、詳細な調査や分類整理などは今後の課題としておきたい。今回は、八戸市立図書館所蔵のなかでも、上級武士であった遠山家旧蔵本に限定し、調査結果を報告することにした。遠山家旧蔵本については未確認未詳の資料群であり、本稿において紹介することにひとつの意義があるものとする。

『往来物解題辞典』⁴⁾にも八戸市立図書館所蔵の往来物資料は紹介されておらず、こういった文献資料が存在していたのかを提示し、今後の研究への布石としたい。

3 遠山家旧蔵の往来物資料について

まず、近世期の版本に限ると、以下に示す12本が該当資料といえる。書名に続く()は『八戸市立図書館国書目録分類(第二巻)』による所蔵番号を示している。

『庭訓往来』(遠八 一)
 『消息往来』(遠八 二)
 『消息集』(遠八 三)
 『女庭訓宝箱』(遠八 四)
 『諸品寸法往来』(遠八 五)

『金言古状揃武雄鑑』(遠八 八)
 『金言古状揃武雄鑑』(遠八 九)
 『御家古状揃』(遠八 一一)
 『鳥石先生之書』(遠八 一二)
 『消息文鑑 尺牘楷梯』(遠八 一四 1-4)
 『大日本二千袖鑑』(遠八 一五)
 『訓蒙要言故事』(遠八 二六 1-4)

これら版本の往来物資料を目的別に分類すると、教訓科往来は、『訓蒙要言故事』の1本、語彙科往来は、『鳥石先生之書』の1本、消息科往来は、『庭訓往来』『消息往来』『消息集』『消息文鑑 尺牘楷梯』の4本、歴史科往来は、『金言古状揃武雄鑑』(2本)『御家古状揃』『大日本二千袖鑑』の4本、産業科往来は、『諸品寸法往来』の1本、女子用往来は、『女庭訓宝箱』の1本となる。

他方、写本としての往来物も所蔵が確認でき、『女今川』『女大学』『近道子宝』(2本)『千字文』等があった。これらの写本は、女子用往来の『女今川』と『女大学』、教訓科往来の『近道子宝』、語彙科往来の『千字文』であるが、それぞれによく知られた往来物である。

手習い初学者に必要な衣食住、職業などの基本語彙に加えて心得などをつづった『近道子宝』、近世期に広く流布し、女子の心得や生き方がつづられた『女今川』『女大学』、また子どもが手始めに学習するにふさわしい単字や短句、単文などが集められた『千字文』をわざわざ写して、書物として制作していたのである。そうした写本が存在することから、遠山家が養育環境に配慮していたらしいことがうかがわれるであろう。

特に注目すべきは、『消息往来』の最終丁部分(画像後掲)に記された「遠山安次郎」という書き入れである。また、『大日本二千袖鑑』には、所有者名らしき「遠山良景」の署名も確認できる。おそらく、これらの文献資料を実際に使用していた人物によって記された痕跡と思われ、近世期の学びの様相を今に伝えているのである。

4 所蔵資料紹介—近世期版本—

ここでは、遠山家で所蔵されていた往来物資料について、版本に限定し、書誌的概要を画像とともに紹介しておきたい。

書 名：庭訓往来

著 者：不明

形 状：縦 26.7cm 横 18.8cm

出版年：元禄二年（1689）

出版地：不明



『庭訓往来』は、古往来に分類されるもので、刊本はほとんど大本であるが、江戸中期以降は半紙本・中本・小本など各種判型のものが登場したが、これは大本に属する。古写本のほか、慶長四年（1599）刊本をはじめ、版本は約三百種にのぼり、最も普及した代表的な往来物のひとつ。書簡の模範文から成り、内容は、武家および上層・庶民の生活を中核として、社会常識を学び得るように配置されている。

書 名：増補大金消息往来

著 者：不明

形 状：縦 17.9cm 横 11.9cm

出版年：不明

出版地：不明



『八戸市立図書館国書目録分類（第二巻）』では「消息往来」となっているが、表紙の題箋に「増補大金消息往来」とあるので題箋に従う。出版地は不明であるが、錦耕堂板を使用し、出版に関わった書肆名は最終丁部分に列記されており、「秋田屋太右エ門」「出雲寺萬次郎」「須原屋茂兵衛」「山城屋左兵衛」「小林新兵衛」「梶屋伊兵衛」「須原屋伊八」等十二箇所の書林が共同して出版した事情が知られる。

興味深いのは、最終丁部分に本文の上の余白部分を利用して、「遠山安次郎」との書き入れが確認でき、もう一カ所にも同様の「遠山安次郎」との書き入れが見られる。この消息往来を利用しながら学習していた本人、つまりは使用者が、自分の名前を練習した、あるいは落書きをした痕跡ではないかと考えられるのである。

書 名：消息集

著 者：不明

形 状：縦 14.2cm 横 9.7cm

出版年：不明

出版地：不明



書 名：女庭訓往来

著 者：貝原益軒

形 状：縦 22.5cm 横 15.5cm

出版年：不明

出版地：江戸



『八戸市立図書館国書目録分類（第二巻）』によれば、『女庭訓寶箱』との書名で記載されているが、表紙の題箋には「女庭訓往来」とある。また、一丁表一行目にも「女庭訓往来」とあり、それに従う。『女庭訓往来』は、中後期にかなりの普及をみた代表的な女子用往来である。ただ、この資料には「貝原益軒著」とあり、『女庭訓寶箱』と解されたのはこのためかもしれない。『女大学寶箱』という往来物資料があり、それは『女今川』と並んで最も板種の多い女子用往来だが、「貝原益軒作」と信じられてきた。「女庭訓往来」を「貝原益軒著」としているものは珍しく、今後内容の詳細な検討が必要であるだろう。

書 名：諸品寸法往来

著 者：鼻山人作

形 状：縦 18.0cm 横 12.2cm

出版年：不明

出版地：不明



「凡諸品寸法並目方之事。先、材木屋（以下略）」との文章で始まり、各種の寸法について解説した往来物で産業科往来に分類できるものである。

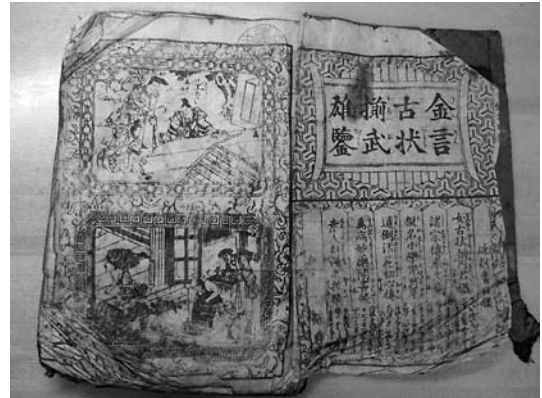
書 名：金言古状揃武雄鑒

著 者：不明

形 状：縦 24.8cm 横 17.5cm

出版年：天保五年（1834）

出版地：江戸





分類番号が(遠八 八)の書誌を示し、画像もそれによる。これは、天保五年に東都書林の鶴屋金助が出版したものである。上段の頭書部分には、「江戸往来」別名「自遣往来」の文章がつづられている。同じ書名であるが、もう一本は、形状が縦25.0 cm 横16.8 cm と若干小さい。また裏表紙、最終丁部分に「鷺屋壺右衛門」との名前が見え、別の版元によるものである。「古状揃」は、近世の初頭中世以来、手習い教科書として利用された『今川状』を中心に、最も流布した往来物のひとつである。



書 名：御家古状揃
著 者：不明
形 状：縦 24.9cm 横 16.6cm
出版年：不明
出版地：江戸

「東都書肆 吉田屋文三郎」とあり、江戸の書肆が関わっていたものである。「古状揃」は一般に上方板と江戸板では、「大坂状」と「曾我状」のどちらを含むかの傾向の違いが指摘されている。

書 名：鳥石先生之書
著 者：鳥石先生
形 状：縦 24.5cm 横 16.8cm
出版年：寛延二年（1749）
出版地：江戸



書道の手習いの教科書として用いられたものであろう。「日本橋 須原平左衛門」とある。

書 名：消息文鑑 尺牘楷梯
著 者：市原子静（青霞 啓斎）作
形 状：縦 17.4cm 横 12.2cm
出版年：文政七年（1824）
出版地：大坂



書 名：訓蒙要言故事
著 者：不明
形 状：縦 27.1cm 横 19.0cm
出版年：不明
出版地：不明

表紙裏に書名とともに「浪華書肆 吉田松根蔵板」とある。漢文尺牘体書簡の入門書であり、中本四巻四冊本である。



書 名：大日本二千袖鑑
著 者：芳山堂先生撰
形 状：縦 22.0cm 横 12.5cm
出版年：天保二年（1831）
出版地：不明



5 「遠山安次郎」について

『増補大金消息往来』に書き入れがされていた「遠山安治郎」について少し述べておきたい。

彼は、遠山家の第十代目に当たる人物であると考えられ、七代の庄右衛門の次男である。遠山家七代の庄右衛門は、『八戸藩遠山家日記』⁵⁾を書き始めた人物で、その日記は、彼から息子の安次郎へ受け継がれ、そして代々の当主が書き継いだものであり、八戸市文化財に指定された重要な史料のひとつである。

庄右衛門には、寛政五年生まれの長男、万之丞がいたが、幼少で死去したため、寛政八年(1796)生まれの次男、安次郎が遠山家を継いだ。その彼が、幼少時代にこの消息往来を使い、学習したという背景を想定することができるであろう。

安次郎は、文化七年(1810)に「屯」と改名し、十五歳で江刺治右衛門の娘と結婚する。その後もそのまま庄右衛門と同居している。つまり、「遠山安次郎」と書かれていたというこは、「屯」と改名する前、十四歳以前にこの消息往来を使用していたことがわかるのである。教科書的に使っていた、消息往来の余白二カ所に自分の名前を練習したものか、あるいは、現代の子どもと同様に、学習の合間の息抜きの落書きなのか、いずれにせよ、学びの実態を示した興味深い書き入れといえることができる。

これらの往来物資料が、遠山家で実際にいつ頃、使われていたものかも知ることができ、近世期の教育的様相を今に伝える貴重なものであるといえるであろう。

6 まとめにかえて

以上、八戸市立図書館所蔵の資料から、遠山家が旧蔵していた往来物について紹介してみた。出版地の確認できた資料は少なく、江戸が4本、大坂が1本であった。また、遠山家の十代目に当たる安次郎が実際に使用していたらしい痕跡を確認することもでき、近世期の養育環境の一面に触れることができるといえるであろう。

往来物資料は膨大であり、その実態解明は遅々とし

てすすまないが、今後も地道な調査を続け、それぞれの地域特性や生活環境などについて、考察検討を重ねていきたいと思う。

注

- 1) 拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」について 一 関西文化との関係から」(『関西文化研究叢書 別巻 往来物の研究』第1輯、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年3月)、拙稿「弘前市立図書館蔵『都花月名所』考 一近世期の京都観一」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究』第3輯、武庫川女子大学関西文化研究センター、2007年3月)、拙稿「岩手県立図書館所蔵の『往来物』について」(『弘前大学教育学部紀要』第100号、2008年10月)等参照。
- 2) 分類については、石川松太郎著『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 解題編』(大空社、2001年)を参考とした。
- 3) 松野陽一「国文学研究資料館報」第33号(国文学研究資料館、1989年9月)等参照。
- 4) 石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 解題編』(大空社、2001年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 図版編』(大空社、2001年)参照。
- 5) 八戸市立図書館市史編纂室編『八戸藩遠山家日記 第一巻』(八戸市、2004年)、および所収の田中直美「八戸藩遠山家日記 第一巻 解題」、八戸市立図書館市史編纂室編『八戸藩遠山家日記 第二巻』(八戸市、2006年)、および所収の斎藤潔「八戸藩遠山家日記 第二巻 解題」等参照。

付記

貴重な文献資料の閲覧や撮影、ならびに掲載許可をいただくなど、研究にご協力とご助力をいただいた、八戸市立図書館の関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

本研究は、平成21年度科学研究費補助金(基盤研究(C) 課題番号19520382)の助成を受けた研究成果の一部である。

(2009. 8.10受理)